

足高SSH通信

第56号
H29. 2. 9
足利高校SSH部

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikaga/nc2>

オープン理科教室（白鷗大学足利高校・三重公民館との共催）

- ①ねらい 地域の小学生に科学の面白さや不思議さを体験してもらうと共に、本校生がTA（ティーチングアシスタント）をすることで、生徒のコミュニケーション力を高める。同じくSSH校として活動している白鷗大学足利高校と共催し、SSH校どうしの交流を図る。
- ②実施概要 12月23日（金）、三重公民館でSSHオープン理科教室が行われました。当日は三重地区の小学生40名が12の実験・工作プログラムに参加しました。



カラフルボール



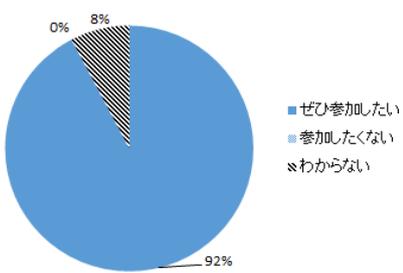
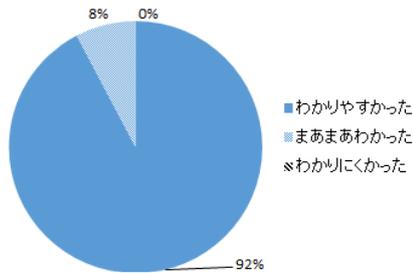
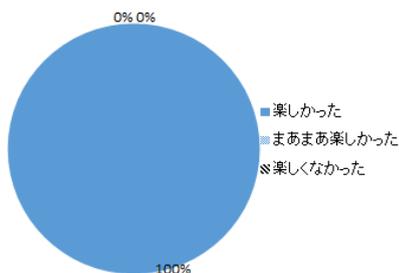
シャボン玉の中に入ろう（白鷗足利）



両校のTA生徒

参加児童の感想

Q1 オープン理科教室は楽しかったですか。 Q2 高校生の説明はわかりやすかったですか。 Q3 また機会があったら参加したいですか。



③生徒の感想

- ・人に教えることの難しさ、人に分かってもらうにはどうすれば良いかを考えることの大切さを知った。
- ・はじめは理解してもらえないか心配でしたが、子どもたちは要領良く頑張っていた。
- ・低学年の子が多かったが、全員無事に作ることができた。
- ・小学生が楽しんでくれて嬉しかった。
- ・子どもたちが自分達の言うことをしっかり聞いてくれた。

④成果と課題

前回同様、参加した子供の大多数がオープン理科教室を楽しみ、アンケート結果も好評だった。生徒も子どもたちに教える楽しさ・難しさを実感していた。昨年度に引き続き公民館との共催もできた。年2回実施のオープン理科教室のうち、1回は白鷗足利と市内の公民館を回る形ができた。今後は2校で共通の実験・工作を行いなどの交流活動も検討していきたい。

平成28年度 SSH生徒研究発表会

①ねらい 今年度のSSH 事業を通して実施してきた研究活動や研修の成果について、まとめて発表することにより、校内外からの参加者で今年度の取り組みを振り返る。

②実施概要 平成29年2月4日(土) 場所: 本校体育館

(ポスター発表 12:00~13:00 ステージ発表 13:15~15:30)

参加者: 本校第1学年178名、第2学年200名

運営指導委員、県教育委員会、研究協力者、学校評議委員、中・高教員、保護者

研究発表会の前にポスター発表が行われました。教授や生徒からの質問にも丁寧に答えていました。研究発表会では、9グループの生徒が研修報告・研究報告を行いました。発表会の最後に、宇都宮大学 教授 山根健治様より各発表へアドバイスをいただきました。今後の研究の課題として、更に研究を深めていくことを期待します。

研修報告の部

- 1 平成28年度SSH事業報告
- 2 U I S 海外研修報告

研究報告の部

- 1 【課題研究】混晶の組成
- 2 【課題研究】曲線による光の反射について
- 3 【課題研究】空気砲
- 4 【課題研究】BR反応による二次振動
- 5 【課題研究】確率における心理的作用
- 6 【科学部】光弾性を用いた応力測定について
- 7 【科学部】金属の抗菌作用
- 8 【科学部】足利市の河川におけるプラナリアの生息分布
- 9 【科学部】大原の定理の作図



③生徒の感想

- ・海外研修の発表を英語のみで発表していたことが印象に残った。
- ・光の反射を数式で証明していたことがとてもきれいだった。
- ・ポスター発表の時間が少なく、すべての発表を聞けなかった。
- ・難しい発表も工夫して発表してくれたので、「なぜだろう」と疑問をもってきくことができた。
- ・プラナリアの研究の写真や図がわかりやすかった。
- ・確率における心理的作用の発表では、その求める確率を単純に考えてしまえば、簡単になってしまうけれど、深く考えてみると

難しくなり、そのようなところでの普通の数学の確率との心理的作用がどう関わっていくのかというところがおもしろいと思った。

- ・BR反応による2次振動について深く知りたいと思った。
- ・教授達の指摘がすごかった。

④成果と課題

生徒たちは1年間の研究の成果を堂々と発表を行えた。各発表の後の質疑応答では大学の先生から次々に質問をして頂いたが、生徒からの質問は2つだけであった。質問し発表者とコミュニケーションをとることで、お互いの理解が深まることを実感させるような取り組みが必要である。